

The number of prehospital defibrillation shocks and 1-month survival in patients with out-of-hospital cardiac arrest

長谷川, 学

<https://hdl.handle.net/2324/1959194>

出版情報 : 九州大学, 2018, 博士 (医学), 論文博士

バージョン :

権利関係 : © 2015 Hasegawa et al.; licensee BioMed Central. This is an Open Access article distributed under the terms of the Creative Commons Attribution License

(別紙様式2)

氏名	長谷川 学			
論文名	The number of prehospital defibrillation shocks and 1-month survival in patients with out-of-hospital cardiac arrest			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	筒井 裕之
	副査	九州大学	教授	池田 典昭
	副査	九州大学	教授	鴨打 正浩

論文審査の結果の要旨

総務省消防庁が提供する2009年1月1日から2012年12月31日の間の院外心停止(OHCA)患者から得られたレジストリデータ(救急蘇生統計)を用いて、院外心停止患者に対する院外除細動の回数と、1ヶ月後生存との関係を調べた。

院外心停止患者の1ヶ月後生存と関連していたのは、除細動回数、院外心停止の原因、特定行為器具の使用、エピネフリンの使用、最初の除細動と最初の自己心拍再開(ROSC)の時間差、胸骨圧迫であった。

院外心停止(OHCA)患者の生存に最も強く関連している要因は院外除細動回数であり、そのカットオフ・ポイントは、2回と3回の間であった。2回以下の除細動を受けた患者の1ヶ月後生存は34.48%であり、3回以上の除細動を受けた患者の1ヶ月後生存は24.75%であった。3回以上の除細動が必要な場合は1ヶ月後死亡の可能性が上昇した。

以上の成績はこの方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったがいずれについても適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と判定した。